

# 指標18-1 FIM利得（運動項目）

代表者：鶴田 真 クオリティマネージャー：林 幸恵  
QM委員会委員10名、診療所職員1名

## FIM利得

### FIMとは

機能的自立度評価表（Functional Independence Measure）の略で、日常生活動作をみる検査法です。運動項目13項目、認知項目5項目で構成されており、各7～1点の7段階で評価します。合計点が高いほど日常生活の自立度が高いことを示します。

### FIM利得とは

回復の程度を意味し、この値が高ければ高いほど日常生活動作能力が向上したと言えます。  
FIM利得 = 退院時のFIM点数 - 入院時のFIM点数

### 指標の意義

リハビリテーションのQI指標として、従来よりリハビリ実施単位数やリハビリ介入までの日数をアウトカム評価として効果判定を行っていましたが、リハビリの質を評価する指標はありませんでした。そこで、当院ではリハビリの質に対する効果判定を行う目的で、2019年よりFIM利得の調査を開始しました。

### Plan(計画)

- 【2019年】現状把握のための調査実施
- 【2020年, 2021年】  
前年度の平均値を目標値と設定し、FIM評価を行う

### Do(実行)

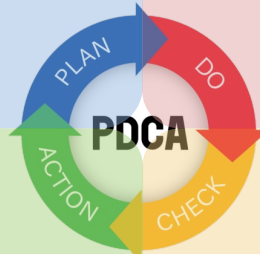
- FIMを実施し、各病棟チームや会議にて振り返りを行う
- 正確にFIM評価が行えるよう、学習会を毎年実施し、精度向上に努める

### Action(改善)

- 【2020年】疾患別の調査項目を見直し、脳梗塞・出血を追加
- 【2021年】タイムリーなフィードバックを行うため3ヶ月毎の調査から1ヶ月後毎の調査に変更

### Check(評価)

- 【2019年, 2020年度】  
FIM利得は全ての疾患で向上
- 【2021年】  
疾患ごとの比較では心不全のFIM利得が有意に向上した



### 活動内容

#### 調査

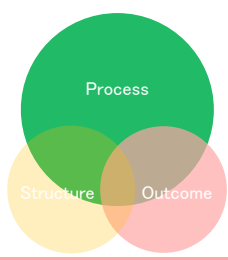
- 1ヶ月毎の調査を継続する

#### 広報

- 院内ニュースや病院ホームページに掲載し、結果を可視化する

#### 効果判定

- FIM利得を用いて、リハビリの効果を客観的に評価する
- 疾患毎の特性を分析し、効果的な介入量などを検討する



# 指標18-1 FIM利得（運動項目）

代表者：鶴田 真 クオリティマネージャー：林 幸恵  
 QM委員会委員10名、診療所職員1名

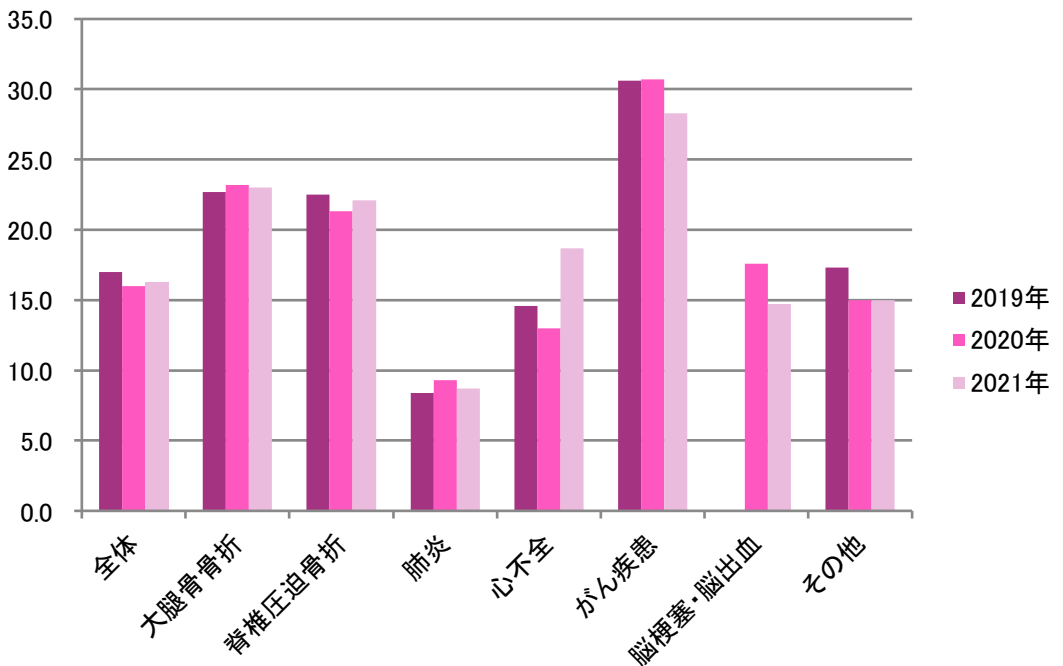
## FIM利得

### 定義

当院に入院しリハビリを実施した患者の運動項目のFIM利得（退院時FIM-入院時FIM）

### 結果

#### 全リハビリ実施患者のFIM利得（運動項目のみ）



#### ●QM委員会より

リハビリ介入により、入院時に比べ退院時のFIMは向上しFIM利得が認められました。

全体のFIM利得は経年的に横ばいであり、今後利得幅が上昇するような、更なる介入方法の検討が必要であると考えます。

疾患別の分析では、2021年度の心不全のFIM利得が2020年度と比較し有意に向上していました。これは、循環器病棟のリハ体制を強化したことによりリハ提供量が増加したことが要因であると考えます。

心不全患者においては、より強化された集中的なりハ介入を行うことで、FIM利得はさらに向上する可能性があることが示されました。

今後も入院早期から質の高いリハビリを提供できるよう、引き続き調査を行って行きたいと思えます。